

事業名称	地域の誰もが安心して暮らせる姫路市づくり
団体名・代表者	非営利活動法人はなのいえ ・ 内海 正子
協働の相手方	地域包括支援課

目的	<p>地域共生社会の実現には、制度や分野ごとの“縦割り”や“支え手”・“受け手”という関係性を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、誰もが安心して暮らせる地域を作っていくが必要だと思います。地域包括支援体制が進み、「地域サロン」・「生き生き百歳体操」等の活動は進んできましたが、</p> <p>「1人で外出できない」「行きたいけど参加し難い」等、最も支援が必要な人に届いていないのが現状です。</p> <p>それらを解決していくために、「出前ふれあいサロン食堂」を実施したいと考えています。</p> <p>具体的には、市内にある公営住宅の集会所等で、定期的カレー等の軽食を100円程度で提供する出前食堂を実施していきたいと考えています。食べると言うキーワードは、どの人にも響き易く、参加したいと考える方も増えると思っています。また、それをきっかけに、安否確認・交流のきっかけ作り・ひきこもりの予防等にも繋がっていく事を想定しています。</p> <p>また、平行してSOSネットワークへの参加企業の発掘・登録の推進・搜索模擬訓練実施の継続を行っていきます。昨年、作成した企業向けのリーフレットを配布し、企業が持つそれぞれの強みを生かした支援をしていく事で、見守りや搜索の機会が増えていき、搜索模擬訓練を地域や企業で行っていくことで、認知症高齢者が外出して行方不明になる事に対する理解者も増え、この活動が将来的には、防災対策にも繋がっていくと考えています。</p>
内容	<p>地域のいろんな人が、普段から顔の見える関係づくりを行ったり、いざという時に相談し合えたり、お互いに支え合えたりする姫路市を目指しています。そんな人が姫路にたくさん増えるように下記の事業を実施します。地域の民間企業の理解と協力を得ることで、地域でお年寄りを支える仕組みづくりがさらに広がることを期待します。また地域サロンの活用方法の幅が広がることで、既存のサロンがより活発で継続的になることを期待します。</p> <p>① 出前ふれあいサロン食堂の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公営住宅及び近隣住民を対象に、カレーなどの軽食を100円程度で提供する機会をつくります。生活圏域の住民同士が顔を合わせる事で顔なじみを増やし、また引きこもりがちの方が地域の場に参加できるきっかけとして取組んでいきます。</li> </ul> <p>② 見守り・SOSネットワーク構築の促進と搜索模擬訓練の普及・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症になっても安心できる地域をつくるためには、地域にある企業の理解と協力が必要です。前年度に引き続き、市が十分にアプローチしきれていない、一般民間企業に対してアプローチを行います。また、認知症サポーター養成講座や認知症高齢者の搜索模擬訓練を実施するサポートを行い、市が実施している見守り・SOSネットワークへの登録を促し、地域包括支援センターと協働した取り組みが行えるように支援を行っていきます。</li> </ul> <p>③ 認知症高齢者の搜索模擬訓練や地域サロンの啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで制作したツールを最大限に活用して市民や企業に対し、継続的な啓発活動を行います。</li> </ul>
事業経過	<p>まず、場所の選定を行うために公営住宅と打ち合わせを行い場所の選定を行うために、各住宅から手を挙げて頂き、聞き取り後選定。その後、事業の説明を行い実施に向けて進めていく。10月より開始し住民からは高評価であった。実施内容を他の住宅にもニュース等で伝えて頂いたようで、見学者が増え実施希望が増えている。2020年2月より、はなのいえの就労Bのレストランでも実施すると、太市や近隣の太子町広阪からも参加して下さっている。コロナウイルスで3月は計画していたが実施していない。</p>
事業の効果	<p>少子高齢化が進み、住民同士の交流も少なく、孤独死も増えてきている社会環境の中で求められているのは、地域での交流の場作りである。しかし、住民が自ら作っていくのは難しいと思う。今回の事業を行った事で、これまで顔を合わす事が少なかった住民同士が、お互いを気にするようになり、体調の悪い方を気遣ったりする場面もあり、本来の目的のきっかけ作りができたと思っている。また、1か所を始めた効果から、見学者があちこちから来るようになり、各自自治体や公営住宅が、少しずつ必要性を感じ始めているように思った。</p>

## 今後の展望

今後も継続することで、実施している住宅では、更に交流が深まり、少しずつ参加者が増え、本来の目的である外出でき難い方への声掛けや参加するために必要な配慮等を検討していけるようになっていくと思っている。しかし、そこにたどりつくには、ゆっくり丁寧な支援と専門職の関りも必要だと思っている。焦らずゆっくりと地域が動き始める事を期待している。あくまでも私たちの動きはきっかけ作りや側面支援であり、実際に動かしていくのは住民の力だと考えている。そうやってもう一度地域の繋がりが出来ていくことを期待している。

## 【実施団体の事業総括・感想等】

始めに開催する場所の選定に時間がかかりましたが、住民の方々も喜んで頂き、毎回楽しみにして頂き良かったと思っています。固定で参加される方や新しく参加される方、ご近所の方まで参加して頂けるようになり、見学にも来られて興味を持たれる方が増えているのでこのまま増えていくといいな—と思っています。また、住民の方が「〇〇さんって人を連れて来てあげたいんやけど・・・」と相談して下さいたり、楽しそうに参加して下さいているのが良かったと思っています。ここまでは成功ですが、今後もっと広げていけるようになり、いろんな所で開催できるようにしていきたいと思っています。

## 【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

「出前ふれあいサロン食堂」には、地域の方が楽しく参加されているようですが、高齢者だけでなく多世代が交流する場があることによる地域での効果を確認・検証されることを期待しています。